

# 支持政党なし 宣言

国会に幽霊がでる!?!

直接民主主義への  
挑戦。

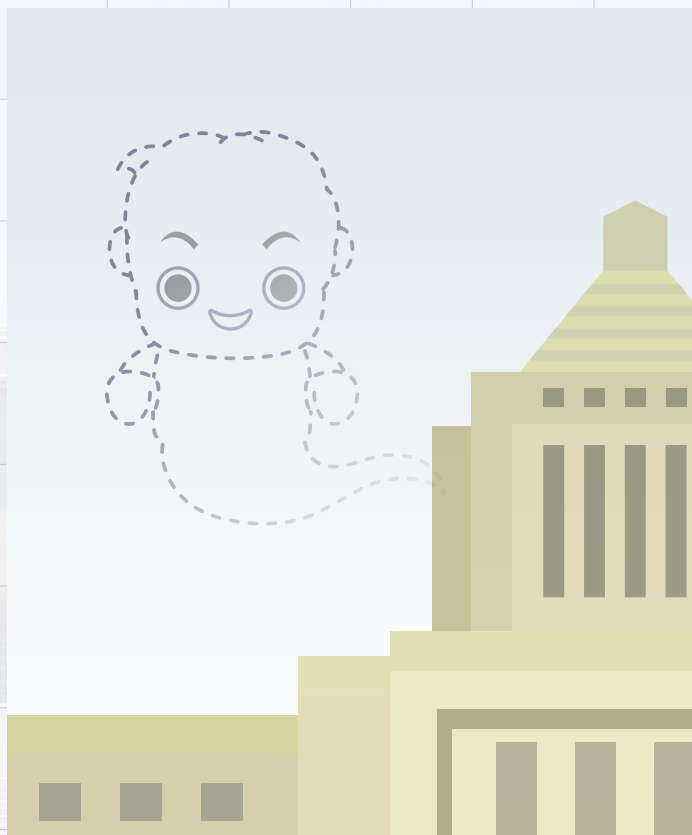
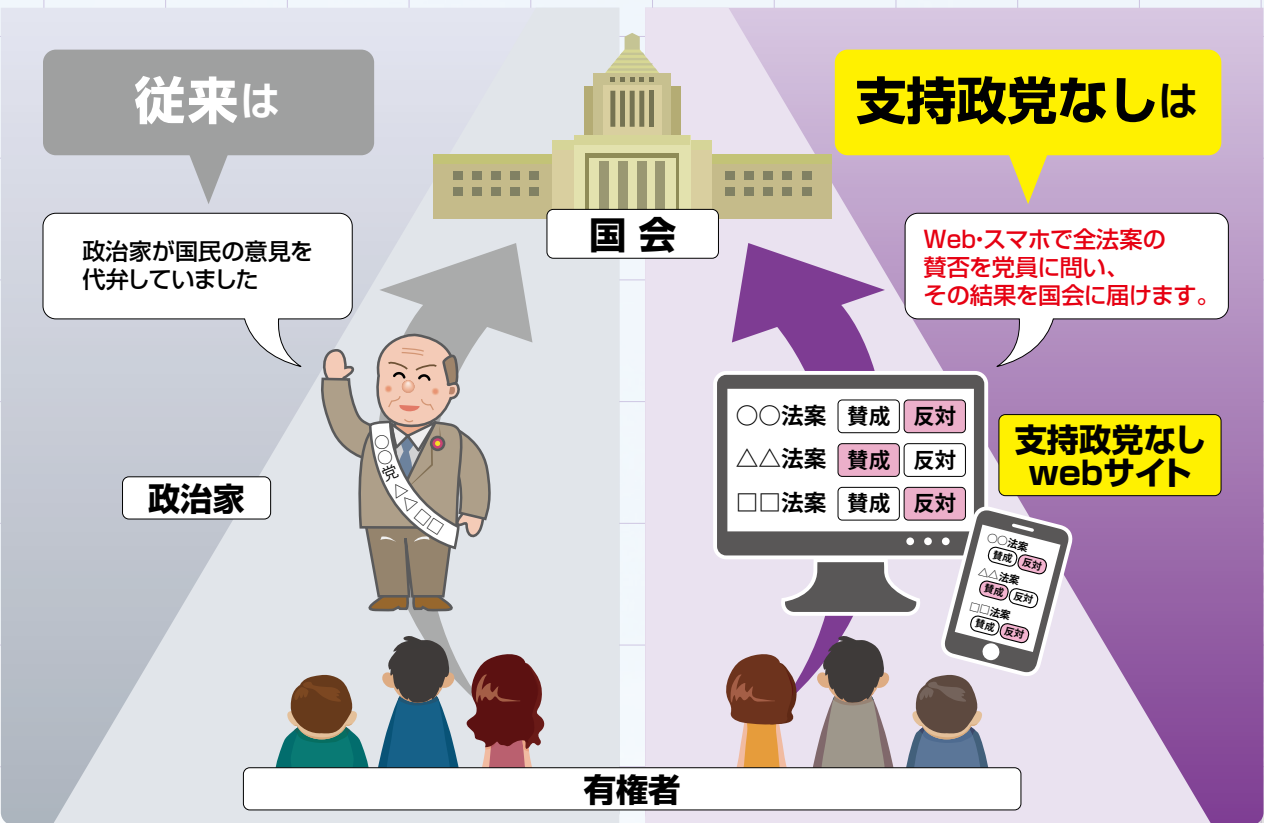
# 国会に幽霊が出る

直接民主主義という幽霊が。

選挙で選出された議員たちによる民主主義に立脚する既成政党は、国民の政治参加を喚起しようといいなから、実は国民が直接政治的な決定者となることを怖れているのではないか。

政治を生業とするものたちにとってみれば、その既得権を無責任な一般国民に侵されたくないというのが本音ではないのか。ましてやすべての既成政党への懐疑の念、失望感のあらわれが「支持政党なし」として増大の一途を辿っているとなれば安穩としている場合ではない。「支持政党なし」という名の直接民主主義の実現を目指す政党が、既存のすべての政党とその補完勢力から非難されるのは、直接民主主義を待望する国民が多数になりなんとしているからにはほかならない。世論調査の政党支持率は「支持政党なし」が他党を押さえて既に断トツの一位なのだから。

政治腐敗の根絶、政党中心政策本位の実現を目指した政治改革は、衆院選挙制度の小選挙区比例代表並立制、政党を除く政治団体や政治家個人への企業献金の禁止、また企業献金の埋め合わせに税金で賄う政党助成制度等を導入した。それで日本の政治は果たしてよくなったのか？否、政治改革はむしろ既成政党とそれに寄生する政治家の既得権を確固たるものとした。それは主権者たる国民の代表などではない、そこから遊離した別の新たな特権階級を生み出したに過ぎない。政治家が国家から手厚い保護を受ける一方で、結局のところ、国民の政治的権利はむしろ軽視されるに至ったではないか。



小選挙区制は、有権者から多様な選択肢を奪い、死票を増やした。選挙における得票率と、結果としての議席占有率との間にあまりに大きなギャップを生じさせている。さらに小選挙区制は、二大政党制を強迫し政党の野合による寡占化を促進、国民から選挙の選択肢の多くを奪った。政党助成金は派閥を弱体化させ、政党が政党の権力集中につながった。金と公認権を差配することで党に対する政治家は党への依存心を強めるばかりだ。政治家自体が国民より党に顔を向ける結果となっている。

極々限られた選択肢から支持政党を選ぶのは難しい。何故なら、ある政党の特定の政策に関しては、賛同できても、その政党の他の政策に関しては賛同しかねる場合が大いにある。しかし様々な政策が大抵パッケージとしてセットになっているのが現状だ。抱き合わせ販売で要らないものまで買わされる消費者と供給者の関係が、今の国民と政

党のそれぞれの立場であるといえる。政党本位とはこういうもので、これでは国民に主権があるとは言えない。ましてや、選挙の時に訴えた公約が、いとも簡単に反故にされ裏切られる経験を何度もしてきた。「議員は、議院で行った演説、討論又は表決について、院外で責任を問はれない」(憲法五一条)とする自由委任の原則を盾に、「公約違反に罪なし」と嘯きそれを繰り返すのだ。有権者は、政治家に任期中何をやっても許される白紙委任状を政治家に渡したつもりはないはずだ。

そもそも、日本国憲法前文は、国民の代表者が権力を行使するものとし、国民は「正当に選挙された国会における代表者を通じて」行動すると述べて、議会制民主主義を採用することを明らかにしている。議会制民主主義が本当に民主主義として機能するためには、代表者(議員)の構成が、民意を正しく反映するものでなければならぬ。しかし現在の日本の選挙制度では、支持する政党及び候補者がなくとも「支持政党なし」、「該当者なし」という選択肢がない。そのため仕方なく消去法的な選択肢の中で、どこかの政党や候補者を選ばざるを得ないという妥協を強いられる苦痛を感じる国民は少なくない。このような有様で投票率の向上など望むべくもないではないか。果たしてこうして示された選挙結果をして本当の意味で民意が反映されていると言えるのだろうか？国民の意思を可能な限り反映できるような選挙の実現こそ何より重要ではないのか？我々は考え、あえて「支持政党なし」という選択肢を設けることで多様な民意の受け皿となり、真に「国民主権」の理念を実現させようと、「行動を起こすに至った」。

そして、現代の情報通信の技術の活用で、現行制度の中でも直接民主主義の実現が可能となった今、幽霊の姿はいよいよ巨大なものとなって国会議事堂の重い扉を開くのだ。

# 支持政党なしへの道

## 難病との戦い！佐野秀光物語

佐野秀光という人物を語らずして「支持政党なし」は語れません。佐野秀光は、一九七〇年生まれ、現在の四五歳。小学生のとき、自分の体の中でインシュリンを生み出す機能がまったく働かない、日本で十万人に数人という稀少疾病「1型糖尿病」であることがわかり入院を余儀なくされました。この病は現代の医学をもってしても、臓器移植のほかに決して治療することはなく、生涯にわたってインシュリンの投与を続けるしか生き続けられないという難病です。夢多き多感な少年にとってこれは過酷な原体験だったといえます。そんな佐野秀光少年は、子供の頃から社会的な事象に関心が高く、将来は政治家になるのだと心に決めていました。そして、日本を動かすような政治家になるにはきつと金が掛かるから、まずは自分で事業を興しお金を稼ごうと、大学生の時に起業し、株式会社情報通信ネットワークを設立したので。社訓は「日本初への挑戦！」で他の誰もやっていない日本初の事業を次々と立ち上げていく中、特に、現在に至るグループの中核事業となっているのが登記簿図書館事業です。簡単に言えば、インターネットで取得できる登記簿等を法務局より安く、便利に利用できる事業です。そんなものが商売になるのかと素人は思いがちですが、佐野秀光の会社では、なんと法務局に支払う手数料よりも安いという通常では考えられないサービスを提供するので。顧客のニーズを的確にくみ取り、一見、不可能とも思えるようなサービスを次々と繰り出し成功させる佐野秀光のアイデアは、常に他人と違った角度から物事を見て、その本質を決して見逃さないことから可能性に打ち満ちて

はどうかと問いかけました。佐野秀光には、国民に対し、なかなか言いにくいことをしっかりと説明し理解を求めていくことこそ真の政治

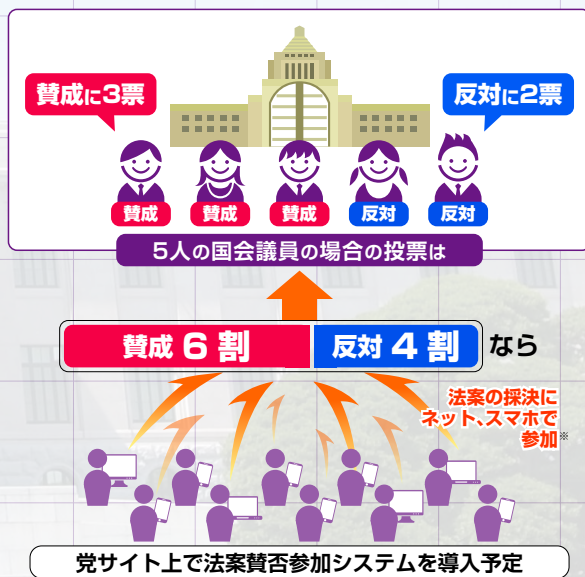
## この選択肢が欲しくありませんか

支持政党なし	<input type="checkbox"/>	△	○
	党	党	党
支持なし	<input type="checkbox"/>	△	○
	<input type="checkbox"/>	△	○

略称は「支持なし」

います。そして、成功するまで諦めない粘り強さとバイタリティーで、そのアイデアを実現させる実行力が佐野秀光にはあります。

## 「支持政党なし」の議決権行使の流れ



## 「新党本質」、「安楽死党」をつくる

事業家として着実な成功を収めてきた佐野秀光ですが、政治への挑戦はまだ道半ばです。最初の挑戦は「新党本質」を標榜して臨みました。毎日のように全国で多数の自殺が発生しています。一方で、生きたいと切に願いながら病に打ち勝てず無念の死を受け入れざるをえない人もたくさんいます。その中には、臓器移植を施せばもっと生きながらえることが可能な人たちもいます。どうせなら死にたい人に安楽死を認め、移植臓器を提供していただくことを可能にする制度を作って

家の使命であるとの信条がありました。だから敢えて、多くの人が心の中で思っていないながら口に出せないことを選挙を通じてぶつけてみたのです。その後、佐野の党名は、「安楽死党」と改められましたが基本理念は踏襲しています。他党が禁忌として絶対にマニフェストに載せないような、それでいて潜在的にはかなり多くの賛同者を得るであろう政策を佐野秀光の政党は取りあげてきました。しかし選挙では埋没してしまつたのです。これは佐野の力不足という以上に、現在の公職選挙法をはじめとする制度上の問題でもありそうです。

## 日本初！ズバリ党名が「支持政党なし」結党

佐野秀光の持ち前は、むやみに他人のやり方を真似したり、やたらと他人に依存しない、自己の流儀にこだわり自己完結させるところが特徴です。当然、失敗することもありますが、学習能力が際立っているのも同じ失敗は繰り返しません。自身の失敗も含め、「第三極」と呼ばれていたここ最近の小政党の短兵急なる消長ぶりを見て学んだことは、小党は所詮、小党であり、既成政党のやり方を模倣したところではそれは垂流にすぎず、与野党いずれかの補完勢力にしかかなれないということ、まして政治を変える力になど決してなりはしないということでした。

真の「第三極」を目指すならば、既成政党とは全く違う道を行くしかありません。そうして佐野秀光が行き着いたところが「支持政党なし」なのです。二〇一三年、おそらく戦後政治史上最も画期的な発明がなされました。佐野秀光が代表を務める「支持政党なし」が政治団体として設立されたのです。

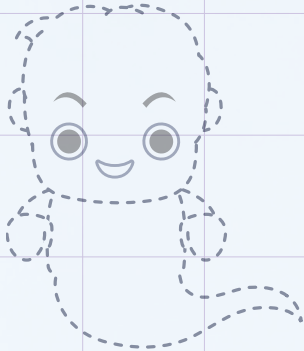
# 安心してくださ 政策は一切ありません

誰も裏切ることはありません。出来ない約束は最初からしません。

## 日本初！「バーチャル国会議員」

支持政党なしでは支持政党を持たない国民の参政権を行使し、法案への賛否を直接国会での議決に反映させることが可能です。

「支持政党なし」におけるいわゆる議員とは、従来の政党のような選挙での支援を主な目的としたものではなく、「バーチャル国会議員」として表決に参加することを目的としています。国民は、これまでも国会議事堂の議場の傍聴席までは行って見学することは出来ましたが、当然ながら議決に参加することは許されていません。そこに自分の支持する政党や議員がいて、なおかつ彼らがちゃんと期待通りの行動を取ってくれるなら何も問題はありません。しかしながら、選挙の時に言っていたことは結果的に違った行動をする議員、政党を私たちがこれまでもずいぶんと見せつけられてきました。そもそも十人十色の意見を満足出来るように代弁できる政党や政治家が存在するはずがありません。選挙の際、立候補した候補者の政見に熱心に耳を傾け、政党のマニフェストをしっかりと読んで比較し真剣に選んでみても大抵裏切られるのがオチでした。ましてや、最初から支持する政党がない、支持できる候補者がいないという多くの有権者は、数少ない候補者、政党からいくらかでもままだと思つものに妥協の末一票を投じるしかありません。しかしながらこの妥協といつのがとても悩ましく、



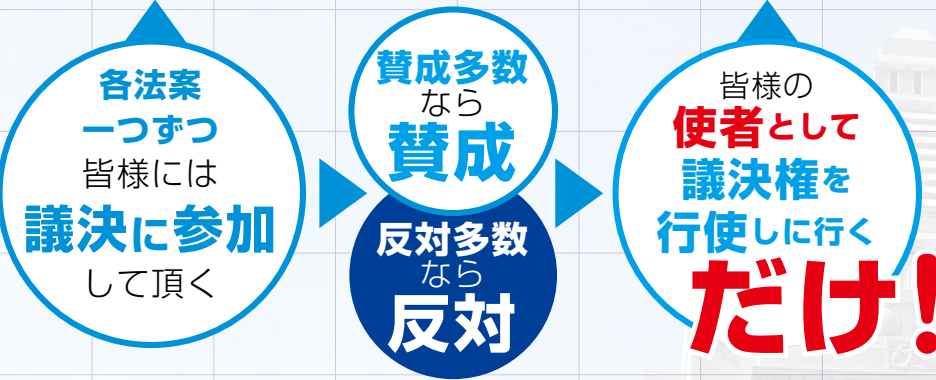
**法案の採決にネット、スマホからあなたも参加できる**

支持政党なし 検索

党サイト上で賛否参加システム導入予定

○法案 賛成 反対  
△法案 賛成 反対  
□法案 賛成 反対

# 政策一切なし



残された選択肢は、白票を投じるか、投票そのものを棄権するかしかなく、こうした有権者は決して政治に無関心なわけでもないのに、これまでその思いなど全くといっていいほど顧みられることがありませんでした。むしろ政治への意識が高い人ほど、その思いを現実の政治に反映させられない苛立ちを覚えてきたのではないのでしょうか。

## 直接民主主義への挑戦

ある日、佐野秀光は、はたと気がつきました。マスコミ世論調査の政党支持率一位は、今や常に「支持政党なし」であることに。しかし、そのような国民の意思を受け止める存在がこれまでなく、「支持政党なし」が多数を占める調査結果を公表するメディアの側も、既成政党に警鐘を鳴らすぐらいの意味合いでしかそのことを取りあげてこなかったのです。佐野秀光は違いました。これまで様々な「日本初」の便利なサービスを、常に顧客の立場に立って提案してきた彼は、「支持政党なし」の人々が抱える既成政党への不満や不信の念を超越するには、国民の意志をダイレクトに国会に伝えるシステムを作ることが必要であると確信したのでした。そこで、代議制による現行の政治制度の中で、直接民主主義を実現するシステムとなる政党「支持政党なし」を二〇一三年に設立したのでした。

佐野秀光自身にも有り余るほどの政治的信条やオリジナルな政策があったからこそ、これまで自ら政党を主宰し選挙に立候補してきましたが、そうした政策のすべてを潔く捨て去りました。今の政治に何より必要なのは国民からの信頼回復です。個々人の国民自身の直接参加で、その都度、政治の方向性を決めるのが一番ではないかというのが、佐野秀光の提唱する「支持政党なし」国民による直接民主主義的アプローチなのです。

## 得票率4.2% 「支持政党なし」

二〇一四年暮れ、衆院総選挙の比例代表北海道ブロックに、「支持政党なし」は名簿届出政党として初めて挑戦しました。事前運動一切なしで、その結果は、一〇万四八五四票、得票率4.2%。議席獲得には至らなかつたものの、既成政党である社民党の二倍、次世代の党の三倍でした。

「支持政党なし」が議席を獲得した場合、一般国民である議員による「バーチャル国会議員」でシェアし、国会の議決に参加出来るようにいたします。「決める」のはまさに一般国民である議員であり、党として予め用意された政策は一切ございません。時間の経過によって変わる民意にもたびたび生じる変化をその都度正できるといふのは非常に合理的で、そのときどきの民意を反映する政治決定の最適化がはかられるのです。

衆議院議員総選挙 比例代表 (北海道選挙管理委員会事務局) 平成26年12月15日 09:15現在【確定】

1	自由民主党	744,748
2	民主党	688,922
3	公明党	307,534
4	日本共産党	302,251
5	維新の党	247,342
6	支持政党なし	104,854
7	社会民主党	53,604
8	次世代の党	38,342
9	幸福実現党	12,267

source: <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hs/>



# 政策一切なし

# 日本初！ 少数意見へのこだわり

もうひとつ、「支持政党なし」が徹底してこだわっていききたいのは、少数意見を尊重し、決して切り捨てないということです。「支持政党なし」による議決権の行使は、「バーチャル国会議員」の投票割合に応じて、保有議席票数を分配しますが、「支持政党なし」の議席数がかもしも一議席しかない場合には申し訳ありませんが単純多数決で賛否いずれか一方に決定します。特徴的なのは複数議席を獲得した場合で、仮に二議席を保有した場合、たとえ99%が賛成、1%が反対という場合でも少数意見を尊重し、「支持政党なし」の表決は、賛成に一票、反対にも一票とします。議席数が増えていくほど、「バーチャル国会議員」の実際の投票割合に近づいていくわけですが、うまく同比率に割りきれない場合には、より少数意見に傾斜配分することを原則とします。

バーチャル【Virtual】とは、日本語の文脈の中では、「仮想の〜」、「虚の〜」のように物理的な実体のない状態を示す言葉として使われることが多いのですが、本来、英語では「表面的、名目的にはそうではないが、事実上の〜、実質上の〜、実際上の〜」という意味で使われます。また、名詞のヴァーチャリティ【Virtuality】には、「本質」という意味もあります。国会において「支持政党なし」の意志を決定する実質的な主体として「バーチャル国会議員」の名は実にふさわしいものと言えます。

# 支持政党なしFAQ

**Q1** 国の予算や法律を決める国会議員の判断を、選良でもない一般国民の「バーチャル国会議員」に任せてしまっても大丈夫なの？

**A1** 「支持政党なし」の党員すなわち「バーチャル国会議員」は少なくとも政治的無関心な人たちではないと思われれます。現存する政党に飽き足りないからこそ「支持政党なし」なのであり、「普通の国会議員」が国民の税金から歳費や諸々のお金を貰って活動しているのに対し、逆にお金を払って積極的に参加する人たちですから、むしろ政治意識の非常に高い人たちです。党や支持団体に依存しない政治的に完全に独立した個人である分、余計なバイアスが掛からずにより公正な判断が出来るとは言えないでしょうか。逆に、「バーチャル議員」の判断に委ねるのではダメだという意見があるのだとしたら、その理由を問いたいところです。果たして今の国会議員に「選良」がどれほどおられるのかという問いと併せて。

**Q2** 支持政党なしの「バーチャル国会議員」には誰でもなれるの？ どうしたらなれるの？

**A2** もちろん、誰でもなれます。無論、日本の国のことを決めるのですから日本国民であること。現在、他の政党の党員でないことなど、いくつかの条件を満たしている必要があります。近日中、募集要項をウェブ上で公開し参院選後に正式な募集を開始する予定です。

# 参議院選挙の仕組み

参議院は任期は6年。3年ごとに定数の半数が入れ替わるよう選挙が行われます。

また、参議院選挙は原則都道府県の区域の「選挙区選挙」、全国を単位とした「比例代表選挙」があります。

一人が2回投票します



※候補者名、政党名以外に「大好き!」「ガンバレ!」などを記載すると無効票になります。

**Q3** 自分も「支持政党なし」の候補者になって選挙に出てみたい。 どうしたら候補者になれるの？

**A3** 参院選後、次期衆院選に向けて「リアル」国会議員候補を公募する予定です。詳細につきましてはウェブサイト上发表される公募要項の公開をお待ちください。「支持政党なし」ではおそらく他党とは全く違う基準で候補者の選考を行います。たとえば自分の政治的意見を強く主張する人などにはご遠慮いただきます。自身の政治的主張はひとまず引っ込めて、すべてを「バーチャル国会議員」の選択に委ねる覚悟と勇気のある人だけがその対象となりうるでしょう。

**Q4** 支持政党なしの国会議員が誕生した時、使者となるだけなのに、歳費等は受け取るの？

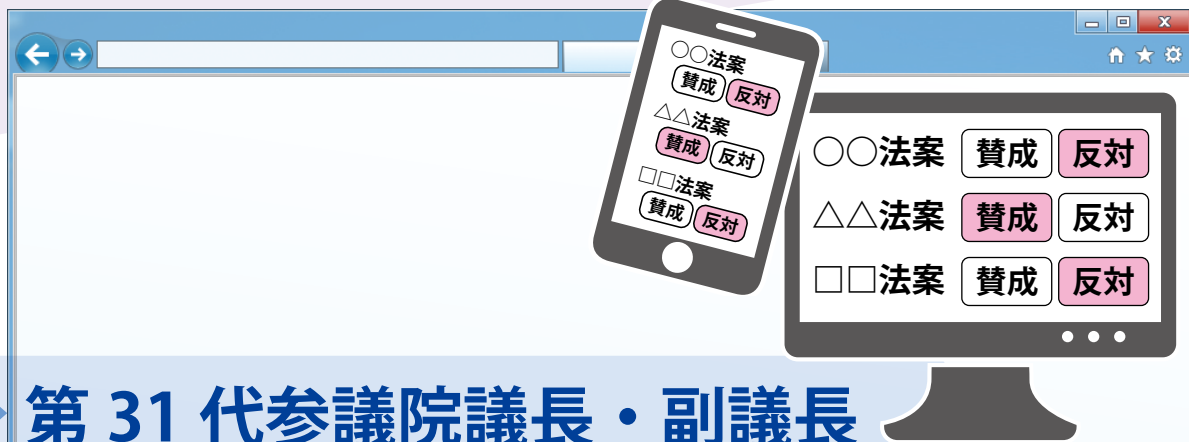
**A4** 使者となる政治家でも法案の調査、賛否参加システムの構築に力を入れるため受け取ります。

# 法案の採決にネット、スマホから あなたも参加できる

支持政党なし

検索

## 党サイト上で賛否参加システム導入予定

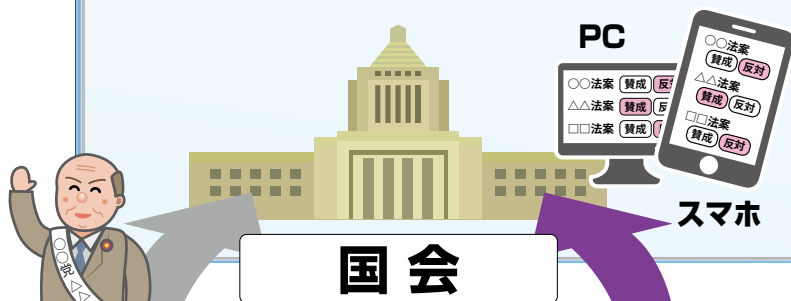


### ▶ 第31代参議院議長・副議長

の選任にあなたの「声」を

### ▶ 第98代内閣総理大臣

指名選挙にあなたの「声」を



今までは…

今までは政治家が  
国民の意見を  
代弁していました

**有権者**(党員)

支持政党なしは…

Webで全法案を  
党員に問い、賛否を  
国会に届けます。

2016.5

## 支持政党なし

〒144-0052  
東京都大田区蒲田 4-22-2  
情報通信ネットワーク  
本社ビル 3F

支持政党なし

検索

支持政党なし宣言

※ダウンロードしての頒布やメール転送は、公職選挙法に抵触する場合がございますので  
ご注意ください。